

第52回原産年次大会 開催報告

2019年4月9、10日、東京国際フォーラムにおいて、「原子力のポテンシャルを最大限に引き出すには」を基調テーマに、第52回原産年次大会を開催しました。国内外から約810名が参加し、原子力がその役割を果たしていくために、革新的技術の開発や放射線利用など、原子力のポテンシャルを最大限に引き出すには何が必要かについて幅広い観点から考える機会となりました。

当協会今井会長は、8年が経過した福島第一原子力発電所事故に伴う被災地の現状に関し、4月10日に大熊町の避難指示が一部解除されることは大変うれしいことであり、原子力産業界として引き続き福島復興・再生への取り組みが図られることに期待したいと述べました。また、パリ協定の目標達成に向けて、国際社会におけるわが国の役割を果たすためには、二酸化炭素を排出しない原子力の活用は必要不可欠であると強調し、2050年を見据えて早期に新增設・リプレースが進むことへの期待を表明しました。

「セッション3」では、原子力発電とは車の両輪と表現される放射線利用について、最新の動向や技術開発の状況を共有しつつ、その可能性について探りました。IAEAから、世界で放射線やアイトープが「生活の質(QOL)」の向上に貢献している様子について、食料・環境、健康、工業、エネルギーの4分野での応用について紹介がありました。また国内の専門家から、工業利用や農業利用、医学利用について紹介があり、大きな可能性のある極めて重要なツールである放射線利用をいかに多くの人に知ってもらうか、そのためには関係者が積極的に社会に対しアウトリーチ活動を行うこと他、最先端の放射線技術開発を実現し、新しい医療・農業・産業の創出につなげることが重要だと強調されました。



日本原子力産業界協会 会長 今井 敬



セッション3「原子力技術の多様性と可能性」のパネル討論



JAIF Regional Network TIMES

人をつなぐ・地域をつなぐーいっしょに明日の原子力を考える

2019年7月 Vol.

8

立地地域と消費地域、事業者と住民 双方向コミュニケーションのための取り組み、続々！



JAIF地域ネットワーク 第20回意見交換会 概要

原産協会JAIF地域ネットワークは、4月8日(月)、「双方向コミュニケーション」をテーマに、国内の原子力発電所立地地域および消費地のメンバーと電力会社などを含めた総勢36名が参加し、「第20回意見交換会」を開催しました。

前半は、メンバーから各地域における2018年度の「主な活動報告」や「工夫・新たに取組んだ点」「今後の課題・来年度の目標」について発表がありました。また、後半は活動報告などから浮かび上がった共通の課題について意見交換が行われ、JAIF地域ネットワークのメンバー同士の連携やボトムアップによる「持続可能な理解活動」が必要であるという認識を共有し、3時間30分に及んだ意見交換会を終了しました。

お耳を拝借

食の境界線 白ネギと青ネギの境界線を探せ!

うどんやそば、ラーメンにも薬味として添えられるネギ。地方によって大きな違いがあるのをご存じですか? 実は東日本では「白ネギ」、西日本では「青ネギ」が一般的なのだそう。

ネギの原産地は中国の西部と考えられており、寒冷な気候の華北・東北部は白い部分が多い「白ネギ」、温暖な華南・華中では緑の部分が多い「青ネギ」、中間地域では両方の性質を兼ね備えた「中間種」が栽培されていたようです。それが奈良時代ごろから日本に順次伝来。寒冷な関東以北に「白ネギ」、温暖な西日本に「青ネギ」、その中間地域に当たる愛知県には「中間種」が広がったとされています。



名古屋駅あたりで、きしめんの薬味を見ると白ネギと青ネギがほぼ半々ずつ添えられているとか。どうやら白ネギと青ネギの境界線はこのあたりといえそうです。あなたは白ネギ派? 青ネギ派? それとも両方ですか?

編集後記

第8号は4月の年次大会前日に行われた「JAIF地域ネットワーク第20回意見交換会」の様態を特集しました。「双方向コミュニケーション」をテーマに、メンバーから2018年度の各地域での活動をご報告いただくとともに共通の課題を抽出し意見交換を行うことで、今後の各地域での理解活動や情報発信活動に役立てていただく場となりました。

立地地域と消費地域、また地域性や文化の違いなどで理解活動といってもさまざまな形がありますが、熱い意見交換に改めて皆さんの活動への熱意を感じた意見交換会となりました。ご参加いただいた皆さんからは「本来の意見交換ができた」「今後の活動の参考になった」といったお声をいただきました。誌面作成に当たりご協力いただいた皆さまには、この場をお借りし改めてお礼を申し上げます。皆さまの活動に役立てていただけるような内容を目指して頑張りますので、ご意見など、どんどんお寄せください。これからもよろしく願い申し上げます。(ノムリエKS)

地域の声と活動の知見を共有した210分

●主な活動実績

- ①エネルギー勉強会:7回
- ②広報活動:7回(青森大学、弘前大学、八戸工業大学、八戸学院大学など)
- ③エネルギー関連施設見学会:3回
- ④広報誌発行:年2回、各400部

大学の教授や学生との連携を軸に

山崎世里子氏
スカークラブ「あおもりサロン」
青森県青森市



山野直樹氏
NPO法人 放射線量解析ネットワーク
埼玉県

●主な活動実績

- ①エネルギー勉強会:3回
- ②エネルギー関連施設見学会:1回
- ③会報誌発行:年1回、100部

新会員獲得のために、ポスター・チラシで告知

白濱允子氏
紫陽花の会など
青森県弘前市



山本育男氏
福島県富岡町 商工会
福島県富岡町

●主な活動実績

- ①大学の「消費生活問題講座」の中で講義
・テーマ:エネルギー、環境問題、福島第一原発事故後の放射線問題、風評被害など
・アクティブラーニングを導入し、自ら考えてもらう
- ②フレンズQクラブ(2008年4月発足、141名)での活動
・エネルギー・地球環境問題を学習する女性の会「Qクラブ」のOG会
・活動:年2回(研修会、施設見学会など)

アクティブラーニングを導入し、自ら考えるよう工夫

石窪奈穂美氏
消費生活アドバイザー
鹿児島県鹿児島市



石原孝子氏
松江エネルギー研究会
島根県松江市

●主な活動実績

- ①講演:5回
・テーマ:(日本の中学生に焦点を当てた)エネルギーリテラシー研究報告～次世代のための効果的なエネルギー教育を目指して～
- ②放射線出前授業:10回
・テーマ:知っていますか?放射線
・対象:中学校(4回)、小学校(3回)、近畿大学「原子炉実験・研修会」、中国電力(株)ハーモニークラブ会員

小・中学生を対象にした出前授業が重要

秋津裕氏
エネルギーリテラシー研究所
東京都



小林英介氏
柏崎エネルギーフォーラム
新潟県柏崎市

●主な活動実績

- ①「エネカフェ」開催:京都、大阪などの消費地域に向けて、発電所の現状やエネルギーの理解活動を実施。広く・浅く・シンプルに伝える
- ②異業種交流
- ③勉強会

「エネカフェ」を開催し、敦賀の今を伝える

丸岡樹善氏
福井県原子力平和利用協議会 敦賀支部青年部
福井県敦賀市



守友誠氏
上関町青壮年連絡協議会
山口県上関町

●主な活動実績

- ①市民のための公開講座・しゃべり場開催
・日時・場所:2018年7月6日、東京大学弥生講堂
・テーマ:言わせて!聞かせて!食品放射に懸念を持つ・反対する理由
・内容:ミニ講座、パネル討論&意見交換

食品放射への不安解消に向け、情報発信

市川まりこ氏
食のコミュニケーション円卓会議
長崎県長崎市



井上チ子氏
NPO法人 WARP-LEE NET
大阪府大阪市

見学会とワークショップの組み合わせが有効

●主な活動実績

- ①地域参画型ワークショップ:5回
必要性・安全性、社会的課題を理解してもらう
- ②関連施設見学会:2回
幌延深地層研究センター、原子燃料サイクル施設
・テーマ:高レベル放射性廃棄物地層処分
・対象:大学生および教員

復興に向け、公的施設やインフラが着々整備

●2017年11月視察後の福島の動き

- ①富岡町(2019年4月の人口:850人/震災前:1万5,000人)
・2018年3月:富岡労働基準監督署・ハローワーク富岡が再開
- ②2018年4月:さくらまつりの開催、双葉医療センター付属病院が診療開始
- ③2018年7月:富岡消防署開署

原発を自分ごと化する、全国初の取り組みに参加

●主な活動実績

- ①全国初の「原発を自分ごと化する」住民による住民協議会「自分ごと化会議 in 松江」の第1回、2回に、推進派パネリストとして参加
- ②講演会:1回
- ③エネルギー関連施設見学会:2回
- ④学生発表会・ワークショップ

地域振興とエネルギーを両輪として活動

●主な活動実績

- ①研修会(柏崎刈羽原子力発電所<安全対策設備>視察)
- ②「エネルギー基本計画」勉強会
- ③提案書「柏崎の地域振興に関する提案～これからの原子力立地の在り方～」作成、自治体等への提出

エネルギー講演会は過去最高の参加者数

●主な活動実績

- ①エネルギー講演会
・テーマ:一緒に考えましょう 私たちの暮らし・環境・エネルギー
・参加者数:170名(過去最高)
- ②エネルギー勉強会(豪雨のため中止)
ターゲットは子育て世代の女性層

本音で語り、暮らしという視点でエネルギーを学ぶ

●主な活動実績

- ①くらし学講座(暮らしは科学である):2回
暮らしや地球温暖化、エネルギー資源問題など、世界や日本の社会情勢を学ぶ(毎年120名を公募)
- ②広報誌発行
年2回(9月、3月)、各500部

当日の意見交換から

Q 講師を呼ぶには費用が必要で、依頼方法や資金調達などについて興味のある方も多いと思います。NUMOさんや電力さんは、地域活動している方々とのように連携をされているのでしょうか?

A1 NUMOでは、今までも手弁当で全国各所に行かせていただきました。エネルギーの中でもバックエンドについてのお話なら、ご相談いただければ、できる限りの範囲で協力させていただきます。

A2 電力では、地域の方をご案内させていただいています。原子力発電所をご覧になりたい方がいらっしゃれば、ご相談に乗れると思います。

〈講演依頼方法などの参考例〉

①講演依頼

- ・日本原子力文化財団の出前授業を利用
- ・行政に協力依頼
- ・「エネルギー環境教育学会」を通じて先生方と連携

②資金調達

- ・大学の先生などと連携し、資源エネルギー庁の助成金(研究費)を利用

Q 本日の活動報告の中で、シンポジウムなどにおいてファシリテーターが担う進行の重要性が出たと思うのですが、どうしたらファシリテーターを育成できると思われますか?

A ディスカッションを「井戸端会議にしない」「対立構造のまま終わらせない」ためにもファシリテーターの進行は重要なのですが、これをどうやって勉強するかが難しく、場数を踏まないとうまくいかないのかなと思っています。

Q 原子力やエネルギーのことを自分のこととして考えていくべきだと思っていますが、誰が主体となって理解活動を進めていくのか? 立地地域から発信していくのは限界に来ているように感じています。そろそろ広報活動の軸は国家が前面に出る時期に来ているのではないかと思います。いかがでしょうか?

A1 「国家の方針を明確にすること」が重要だと考えます。再稼働がこのような状況であれば、原子力サプライチェーンが立ち行かなくなってしまう。経団連からエネルギー政策の提言が発表されていますが、原子力の継続的活用について触れています。

A2 総理大臣が決断して進めていく必要があると思います。



総評
秋庭悦子氏
NPO法人あすかエネルギーフォーラム 理事長

皆さま、お疲れさまでした。短い持ち時間でしたが、それぞれのご報告から日頃どのような活動をなさっているかがよく分かりました。また、いかにモチベーションを維持することが大変かということも感じた次第です。今、こうして皆さまの声を聞くと、これから持続的に活動を進めていくには、やはり「JAIF地域ネットワークのメンバー同士の連携」と「ボトムアップ」が一層必要ではないかと、改めて思ったところです。地道な活動になりますが、これからも頑張ってください。